

左京北地区更生保護女性会会長賞

考え方を変える

京都市立洛北中学校三年 山田 愛結

ある日何気なく見ていたはずのニュース番組で、とある特集が始まった途端、私はなぜか目を離せなくなりました。

その特集では、「協力雇用主」という人たちに密着取材をしていました。協力雇用主とは、犯罪や非行歴のために仕事に就くことが難しい人の事情を理解し雇用することで、立ち直りを支援し自立した生活を送ることができるようになる事業主のことです。

現在協力雇用主は約二万五千社あるそうですが、そのうち実際に刑務所出所者などを雇用しているのは約千二百社に留まっています。さらに、協力雇用主は年々減っています。

特集を見ているとき、「そんなことをしている人がいるんだ。」という驚きを感じました。同時に、「なぜ犯罪をした人に手を差し伸べるんだらう。」と思いました。

しかし特集を見ていくうちに、私の気持ちは変わっていきました。取材を受けている働く人はみんな一生懸命で、犯罪をしたことがあると言わないとわからないような人ばかりでした。

協力雇用主の人たちも、初めは雇用することに不安や心配があったけれど、みんな真面目にできることを全力でやってくれるから協力雇用主をやっているよかったですと話していました。中にはお金を盗んで逃げられてしまうこともあるようですが、一人一人に向き合って不安を取り除いてあげるべきだと言っていて、素敵な考え方だなと思いました。

協力雇用主の人は、一人でも自立できるように、再犯が減るようにという強い気持ちで原動力になっています。だから一人一人に寄り添うことができるんだと思いました。

協力雇用主の人の話を聞いてみると、犯罪をしたという差別などで一人ぼっちになってしまい寂しかったはずだから家族のように接している

という人や、ご飯を食べたり話したりする機会をつくるようにしているという人がいました。寄り添ってくれる人がいれば嬉しいし安心できるので、心の拠り所になると思います。その結果、再犯の防止にも繋がっていると思うので支えてくれる人の存在は大きいと感じました。

また、初めは「なぜ犯罪をした人に手を差し伸べるんだらう。」と思っていたけれど、犯罪をした人はやりたくてやったわけじゃないかもしれないし、なにか辛いことがあったのかもしれないし、犯罪をした人＝悪い人という決めつけはいけないな、と思うことができました。

私は社会を明るくするためには、偏見や思い込みを捨て考え方や見方を変えることが大切だと思います。そうすることで、あたたかく自分を受け入れ認めてくれる人が増えて、犯罪を思いとどまってくれる人も増えます。

だから、考え方や見方を変えてみるのが重要だと、私は思います。